

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（774））
2. 日 時：平成30年3月15日 13時35分～15時35分
3. 場 所：原子力規制庁 9階耐震会議室
4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

名倉安全管理調査官、江崎企画調査官、吉村上席安全審査官、岸野主任安全審査官、  
安田主任安全審査官、日南川安全審査官、千明技術研究調査官、竹内技術参与

（技術基盤グループ 地震・津波研究部門）

石田統括技術研究調査官

事業者：

日本原子力発電株式会社：開発計画室 北川執行役員 他7名

東北電力株式会社：原子力部（原子力設備） 担当 他1名

東京電力ホールディングス株式会社：原子力設備管理部土木技術グループ 担当 他1名

中部電力株式会社：原子力部 設備設計グループ 副長

北陸電力株式会社：原子力本部原子力部 原子力安全評価チーム 担当

中国電力株式会社：電源事業本部（原子力耐震） 担当

電源開発株式会社：原子力技術部 設備技術室 担当 他1名

## 5. 要旨

（1）日本原子力発電から、3月6日及び本日の提出資料に基づき、東海第二発電所の工事計画認可申請のうち、津波への配慮に関する説明書について、説明があった。

（2）原子力規制庁から、主に以下の点について指摘を行った。

＜漂流物に係る検討について＞

- 漂流物荷重の算定根拠となる電力中央研究所の研究成果の評価式を各漂流物荷重算定式の比較表に整理するとともに、その研究成果の妥当性（FEMA式に対する保守性を含む）及び東海第二発電所への当該実験の適用性について、整理して提示すること。
- 基準津波を超え敷地に遡上する津波における防潮堤内側の漂流物荷重について、本検討との関連性を整理して提示すること。
- 取水機能を有する安全設備等の取水性に対する影響評価も踏まえ、漂流物に係る検討フローを整理して提示すること。

＜防潮堤の設計における考慮事項＞

- 評価断面の選定に用いる地表面最大変位発生時刻の変位分布について、各層の最大せん断ひずみ発生時刻における変位分布と比較し、地震継続時間中の荷重（変位）の網羅性を整理して提示すること。
- 鋼管杭鉄筋コンクリート防潮壁の断面選定について、防潮壁の構造健全性、ジョイント部の止水性の確認などの目的に応じて、整理して提示すること。

- 防潮堤止水ジョイント部材のうちシートジョイントの展開性能について、整理して提示すること。

(3) 日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

## 6. その他

提出資料：

- ・ 漂流物に係る検討について
- ・ シートジョイントの津波時の展開に関する実現性の確認について